

原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：令和5年6月27日（火）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：黒川長官官房総務課長

<本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから6月27日の原子力規制庁定例ブリーフィングを始めます。

○黒川総務課長 報道官の黒川です。

お手元の広報日程に沿って説明いたします。

まず、あしたの委員会の定例会の議題の3つです。

議題の1つ目が、IAEA（国際原子力機関）の安全基準委員会の結果概要ということで、この会議は、国際会議の結果の報告ですけれども、毎年2回行われていまして、原子力施設の安全に関する基準、指針の策定などを行うという会議です。5月23日から25日にかけて行われたこの会合の結果について、出張者から報告を行うという議題です。

2つ目ですが、原子力施設における車両型設備の点検状況ということで、これは2月1日の委員会で、六ヶ所の再処理施設で車両火災がありましたという、そういうものがトピックスとして報告されたのですけれども、そのときに、ほかの施設も含めて、そういう車両型の設備の点検状況を報告するようにという指示が2月1日の委員会でありましたので、それを受けて、実用炉と核燃料施設等について調べて報告するという議題です。

議題の3つ目が、国立研究開発法人審議会の委員の任命ということで、これは、この審議会の委員が2年間の任期を迎えましたので、新しい委員を任命したということ報告する案件です。

この審議会は、所管の2つの法人、JAEA（日本原子力研究開発機構）とQST（量子科学技術研究開発機構）の業績評価などを議論する審議会で、6人の委員が任命されていて、うち2人再任ということになっています。

こちらからは以上です

<質疑応答>

○司会 皆様からの質問をお受けします。いつものとおり所属とお名前をおっしゃってから質問をお願いいたします。御質問のある方は手を挙げてください。

ヨシノさん。

○記者 テレビ朝日のヨシノです。

CSS（安全基準委員会）は、何か日本の国内に基準を持ち込むような、何か新しい基軸

は打ち立てられたのでしょうか。

○黒川総務課長 幾つか今回の会議で決まったことはあると聞いていますけれども、特にそれが規制に反映される、これが必要ですというものがあるということではないということのようです。

○司会 ほかに御質問はいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、本日のブリーフィングは以上としたいと思います。ありがとうございました。

—了—